

大阪大学図書館報

Vol.31 No.1 June 1997 (平成9年) 通巻 126号

目次

- 図書館とわたし
- 小杉文部大臣生命科学分館視察
- お知らせ
 - 本館のCD-ROMデータベース追加と変更
 - 学術情報検索システムの新データベース
 - 図書館ホームページのリニューアル、本館・分館ホームページ公開
 - 本館に投書箱設置
 - 大型コレクション「ドイツ政治思想史」購入
- 会議・日誌

図書館とわたし

西原 力

1. はじめに

この4月から生命科学分館長になり、最初の仕事がこの原稿の依頼であった。なかなかテーマが思い付かず、結局図書館にまつわる私の思い出話ということになった。略歴等は学報の4月号をみていただければおわかりのように、今55歳である。したがって、戦後すぐに小学生と

なり、大学生時代は60年安保、大学院生時代は大学紛争の真っ最中、職員になったころから高度経済成長がはじまり、円が変動相場制になり、最近は大バブルがはじけ、低成長、高度情報国際化時代といわれている。薬学部において十数年来環境科学研究に取り組んでいるが、地球規模の環境汚染も現実的な問題になりつつある。

図書館の役割として、数多くの活字情報を収納し、広い静かな閲覧室をもつというようなハード面と、効率よく目的の情報が検索でき、コピーの依頼などの各種のサービスを受けられるというようなソフト面があると思う。検索用のソフトを含むコンピュータやコピー機などはハードと言えるかも知れないが、それらの使い方などはソフトに入るであろう。この両面が充実している図書館がユーザーとして良い図書館と言えるよう。

2. 小学生・中学生のころ

戦後すぐのころ、図書館というものはほとんど記憶に無い。小学校のひとつの教室に自分たちの家にあった絵本や雑誌などを持ちよって図書室ができたように思う。そのころの私は毎日裏山に出かけ、友達と鬼ごっこや木登りなどに熱中していた。読書という意味では、はしかのとき「ファブルの昆虫記」を買ってもらいそれを読んだ程度である。小学校高学年から中学生になると田舎の町にも市立図書館ができたが、私は専ら近くの貸し本屋（最近は見かけなくなったが、確か1冊2日で15円位で最新の雑誌や漫画や小説本を貸してくれた）で本を借りて乱読した。源平盛衰記とか太閤記や宮本武蔵などの読み本にはじまり、志賀直哉、森鷗外、武者小路実篤などの小説、さらには海外の短編小説などであった。

3. 高校生のころ

高等学校の図書室は、もちろん小説などの書庫であったことはもちろんであるが、参考書を利用した受験勉強の場でもあった。言い換えれば、図書室（館）を書庫と閲覧室という機能のみではなく、検索・調査というソフト面の機能の一部を利用しはじめたといえるかもしれない。ただ、志賀直哉全集の隣にあった南方熊楠全集

は、それを読んだ記憶はないがなぜかその名前は覚えていた。数年前ちょっとしたブームになり、地元（和歌山県）出身の博物学者（環境生物学）であることを知り、なぜその当時に私達の高等学校の図書室にあったのかをあらためて合点した。時間ができれば一度ゆっくり読んでみたいと思っている。

4. 大学生・大学院生のころ

父が病気入院ということもあり、大学2年次のほぼ1年間は和歌山（海南市）から紀勢線（そのころはまだ蒸気機関車であった）、阪和線、地下鉄、阪急を乗り継いで毎日往復7時間ほどかけて通学していた。車内で図書館から借りた本を読んでいたはずだが、ほとんど副作用の無い睡眠薬として利用していたためか、それらの本の記憶はない。4年次になり、卒業研究のための科学論文を読むようになったが、現在のようなコピー機はなく、仲間と手分けして写真をとり、暗室で現像し、安い印画紙にプリントしてノートに貼り付けたりしていた。湿式コピーが薬学部の図書分館に入り、便利な機械ができたものだと感心した。文献の検索はChemical Abstractsやそのころ出始めたタイトルを集めた二次情報誌を利用した。院生になってようやく乾式コピー機が利用できるようになり、複写は楽になったが、検索は人力に頼った。いまでも残っているが、手製の文献カードを何百枚も作った。そして、そのカードの縁に穴を開けたり、色付けしたりしてパンチカード（厚めのカードの周囲にa b cや数字に相当する小穴が3行ずつあり、キーワードなどに相当する穴の間をパンチし、ソーターと呼ばれていた金串のようなものを穴に差し込むと検索やソート等ができた）まがいのものを一生懸命作った。しかし、結局一枚一枚みていく方が間違いがなく、穴あけなどの作業に無駄な時間を使ったといつも後悔していた。

5. 職員になってから

1973年から、約2年間ワシントン近郊の米国国立健康研究所 (NIH) で研究する機会を得た。その時、初めてオンライン検索を経験した。NIHには数千人の研究者 (うち日本人が100名程度) が居り、その図書館は24時間開館であった。図書館のカウンターの横にコンピュータ検索の相談室があり、キーワードの選定をして係の人に渡すとMEDLINEのオンライン検索ができた。研究内容が医学とあまり関係のない環境微生物の生理・生態に関するものであり、キーワードが適切でなかったためかもしれないが、それほどうまくヒットしなかった。ラボで自動遡及 (SDI) を申込んでおり、その便利さに感心した。帰国後しばらくしてから、私達の講座でもパソコン (NEC: PC8001) を購入し、ワープロや簡単な統計計算や住所録管理用のソフトを購入して使い始めた。記憶装置がフロッピーではなく、カセットテープであったこともあり、読み込みに時間がかかり、読み間違いも度々起こったが、プログラムがBASIC言語で書かれていたので、私でも使いやすいように変更できた。文献整理用には住所録用のソフトを変更した。画面に1行余分に表示させようとするメモリーオーバーになり、それを組み込むのに1週間ほどパソコンと格闘したりした。パソコンを先代の近藤教授室に置いていたので、先生が居られない間にしか使えず、データを入力するのは主に夜間で、1台のパソコンを他の職員や院生達と順番に使っていた。徹夜でパソコン相手に麻雀ゲームをする院生も居たが、結局穴あけこそしなくても良かったものの文献カードも作らざるを得なかった。確かに検索やソートなどは効率よくはできたが、大文字と小文字の入力ミスなどもあり、完成までに時間がかかり、結局あまり活用しなかった。

そのうち、丸善のMASISセンターでDIALOGというパソコン通信による文献検索ができる

ことを知り、使い始めた。主に利用したデータベースはBIOSISであった。しかし、これは電話回線を通じて、米国カリフォルニアの大型コンピュータを動かすということで、料金の関係もあり、緊張して使った。初めて検索した結果をプリントして送ってもらう時 (自分のパソコンではプリントに長時間かかり、文字化けなども頻発した。もちろんダウンロードは不可能であった)、不安になり、その操作を3回繰り返した。キャンセルの仕方がとっさに判らなかったので同じ結果が3部送られてきて、その請求 (約10万円) の支払に同僚と大汗をかいた。しかし、BIOSISの講習会に参加したりして、検索にも慣れ、SDIで定期的に結果を送ってもらうこともした。その後、阪大の大型計算機センターでもBIOSISが利用できるようになり、大いに活用した。最近はインターネットで検索することも多くなり、文献カードを作ることもパソコンにデータを入力することもなくなった。ただし、文献カードを作る時にはタイトルや著者名等の書誌事項だけではなく、その文献のキーワードを自分なりに考え、書いたり、穴あけ等をしたことにより、研究情報の記憶が必然的にできた。最近研究情報などの記憶力の低下を痛感することが多くなったが、年令のせいだけではなく、これは文献カードやデータのパソコン入力をしなくなったためだと自分で納得させている。

6. 分館長として

教授になり、すぐに薬学部の分館長を経験した。薬学部は当時13講座であり、うち約半数は有機化学が専門であるが、分野は化学、物理、生物に亘っており、多くの雑誌を購読せざるを得なかった。最初の難問は図書費の捻出であった。次々と新しい雑誌が創刊され、円安も重なったためである。購読中止の候補になったのは、高額のBiochimica et Biophysica Acta と

Chemical Abstractsであった。後者の Collective Indexは既に諦めていたし、CA Searchによるオンライン検索の利用も可能になっていた。そちらを活用することで納得して頂いた。当然のことながら、先輩の教授から「活字をみるにより、アイデアが生まれる」とか、「○○の研究はたまたま自分のみたい文献を探しているとき、その後にあった文献が目に入り、思いついたものである」などといった反対意見があった。私自身もコンピュータ検索を始めたころは、その検索結果に検索もれ等の不安感をもったことも事実であるが、最近は、情報が膨大な量となり、オンライン検索の便利さを体験することにより、この不安感は無くなり、学生達がこの機能を十二分に活用していることに目を見張ることも多い。

この次に控えていた最大の難問は、医学部の吹田地区移転に伴う薬学分館の廃止であった。生命科学分館の分担金の負担に伴う薬学図書室での購読誌の大幅削減見直しと図書定員の移動に伴うサービス低下が主な問題であった。これも約25年前薬学部が蛍池から吹田に移転した当時の教授会の「中之島分館が吹田地区に移転してきた時には薬学分館は廃止する」という決議があったことと、私達も薬学部の一員である前に大阪大学の一員であり、大学の発展には多少不利益であっても協力すべきであるという大義名分で押し切った。そして、平成3年11月に中之島分館と薬学分館が合併して生命科学分館が開館し、薬学分館は分室となり、私の分館長も終了した。

今年の4月に生命科学分館長になってからの実際上の仕事としては、この文を書いたこと以外、日本医学図書館協会の総会出席のため旭川に出張したことと、小杉隆文部大臣が生命科学分館を視察に来られた時に案内したことである。旭川の総会での講演と展示では、コンピュー

タネットワークによる図書館システムに関するものが主であった。1泊2日で地酒を少し味わった程度であり、帰りの飛行機の窓から初めて残雪の大雪山系を遠望しながら、もう少し時間的余裕があればと残念であった。文部大臣視察に関しては、OPACに興味を示されたので大臣の名前で検索したところ、著書が本館と人間科学部の分室に1冊ずつあるという検索結果が出たことが印象深い。なお、この時貴重な研究用ビデオテープをお貸し頂いた医学部の白倉良太先生と微生物病研究所の岡部勝先生に誌面を借りてお礼申し上げます。

7. おわりに

「はじめに」の項に書いたように、図書館の機能としてはハードとソフトの両面あると考えられる。ハード面では、特に生命科学分館のような理系の研究用図書館では、自前のものも含めたデータベースと情報ツールの充実が当面の目標となろう。近い将来、学術雑誌は製本という形態をとらず、CD-ROM等として提供され、各自の研究室ひいては自宅から検索・読み出しも可能になることだろう。つまり、書庫や閲覧スペースの問題は多少解消され、著作権や秘守情報の管理等の問題は残るが、情報公開が進むと考えられる。環境問題に関しても情報公開は重要である。つまり、情報公開によって多くの人々の知識が増え、相互信頼関係が確立し、「ヒトも宇宙船地球号の一乗組員」であるという意識が高まれば、3つのR、すなわち、Recycle、Re-use、Reductionが実行されていくつかの問題が解決されると期待できるからである。

一方、ソフト面に関しては、主としてサービス業務によるものであり、図書館職員諸氏の知識と意識に負うところが大きく、その活躍への期待も大きい。

にしはら つとむ (生命科学分館長・薬学部教授)

小杉文部大臣生命科学分館視察

台風が通過した、去る6月23日(月)11時前、金森総長以下事務局・図書館職員幹部の歓迎を受け、生命科学分館に到着された小杉隆文部大臣は、西原分館長の案内で館内を視察されました。

大臣は、OPAC(オンライン利用者目録)の端末の前で、目録検索について質問され、著者名「小杉 隆」の検索により、大臣訳の『地球の掟:文明と環境のバランスを求めて』が本館・人間科学部に所蔵されていることを画面上で確認し、満足された様子でした。

また、同分館が外国雑誌センター館に指定され、全国共同利用の外国雑誌を収集し、レアジャーナルの数も多く、複写サービスを主体とした相互協力について努力していること等、実状について説明を受けられた後、為替相場の変動と購入価格の関係について質問されました。

4階のラーニング・リソース・センター(LRC)では、学生がビデオを使っての学習の様子を見学され、つづいて、AVホールでDNA

組替えに関するビデオ『Green mice』を西原分館長の説明で御覧になり、非常に関心を持たれた様子で、最後にクローン人間について質問されました。

短時間ではありましたが、大阪大学の図書館が担っている教育・研究の支援活動の一端をご理解いただけた様子でした。



お知らせ

本館のCD-ROMデータベース追加と変更

本館の情報検索コーナーで検索できるスタンダードのCD-ROMデータベースに、このたび下記のもの新たに追加されました。

・戦後50年朝日新聞見出しデータベース CD-ASAX 50yrs.

朝日新聞縮刷版1945年上半期号から1995年12月号までの巻頭記事索引をデータベース化したものです。約52万件の記事見出しを、見出し、分類、発行日、キーワードなどから検

索することができます。

次ページの図の検索用パソコン「E」で利用できます。

・書誌ナビ

図書、雑誌、CD-ROMの出版情報や出版社に関するデータベースです。以下のデータが収録されています。

- 1.1980年以降に国内で出版された書籍100万件
- 2.1979年以降に国内で刊行されていた雑誌と、それ以降の創刊誌約2万タイトル

3.CD-ROM 日本及び海外の6,000タイトル以上

4.出版社 約 16,000社

5.PCショップ 約1,000店

1.は冊子体の「日本書籍総目録」、2.は「雑誌新聞総カタログ」、3.は「世界CD-ROM総覧」に、それぞれ相当するデータです。

下図の検索用パソコン「E」で利用できます。

また、下記のデータベースの検索環境が変更されています。

・判例マスター

検索ソフトがWindows版に変わりました。

また、検索できるパソコンは下図の「D」に移っています。

・世界大百科事典

検索ソフトがWindows版に変わり、新たな形で提供を開始しました。検索できるパソコンは下図の「D」です。

・Business Periodicals Index

検索できるパソコンが下図の「A」に移っています。検索ソフトは、ODINS経由の学術情

報検索システムと同じWinSPIRSで、他のデータベースと一緒に検索できます。

・朝日新聞記事全文データベース CD-HIASK

検索ソフトがWindows版に変わりました。

下図の検索用パソコン「E」で利用できます。

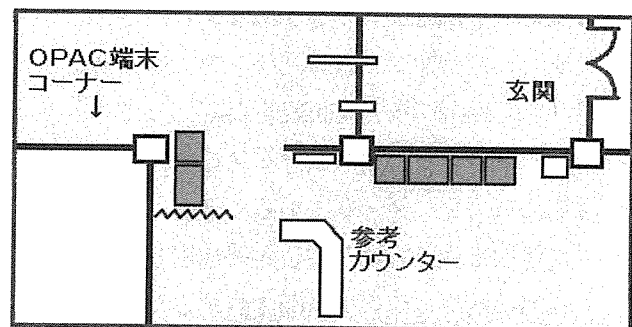
・雑誌記事索引

検索ソフトがWindows版に変わりました。

・Oxford English Dictionary

検索できるパソコンが下図の「D」に移っています。

また、検索用パソコンのプリンタを更新しました。データベースから検索結果を印刷される場合は、A4またはB5の用紙をご用意ください。



学術情報検索システムの新データベース

ODINS経由で提供しているデータベースに、新たに下記の2種類が加わりました。

CINAHL

”Cummulative Index to Nursing & Allied Health Literature”の電子版で、看護学・保健学分野のデータベースです。データのカバー範囲は1982年～現在で、毎月更新されます。

English Verse Drama

中世から19世紀までのイギリス劇の全文データベースで、平成8年度の特別図書として購入したものです。WindowsNTサーバから提供されています。利用方法については、前号のお知らせ「新データベースの研究室からの試用」または、図書館インターネット広報の同内容のお知らせ (<http://www.library.osaka-u.ac.jp/news/newdb2.htm>)をごらんください。

また、ERLシステムの検索ソフトとして、

WebSPIRSが使えるようになりました。これはWWWのブラウザから直接ERLのデータベースを検索できるようにするもので、SPIRSなどの検索ソフトをインストールする必要がありません。

WebSPIRSを利用するには、下記のアドレスにアクセスしてください。

<http://erl2.library.osaka-u.ac.jp/cgi-bin/webspirs.cgi>

最初にIDとパスワードをたずねる画面がでますので、ここで現在利用されているERLのID、パスワードを入力しますと、検索画面に変わります。

詳細については、インターネット広報の「学術情報検索システムのお知らせ」(<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/gakuj05.htm>)に掲載しております。

図書館ホームページのリニューアル、本館・分館ホームページ公開

この度、大阪大学附属図書館のホームページをリニューアルすると共に、本館、生命科学分館、吹田分館の各ホームページを新たに公開いたしました。

本館ホームページ

本館の利用案内の他、特殊コレクションや参考図書コーナーについての案内を掲載しています。今後順次内容を充実させていく予定です。

URL: <http://www.library.osaka-u.ac.jp/honkan.htm>

生命科学分館ホームページ

問い合わせの多い雑誌製本や開館時間については、トップページで概要が分かります。図書館への相談、調査のページでは、利用者のみな

さんからのご質問やご意見を受け付けております。今後、利用者のみなさんにとって有益なホームページにしていきたいと思っております。

URL: <http://www.library.osaka-u.ac.jp/seimei/>

吹田分館ホームページ

英文案内、お知らせ、利用案内、蔵書検索(OPAC)の案内等々です。館内掲示されているアップトゥデイトな情報を「お知らせ」のページでご覧になることもできます。本館、生命科学分館ホームページへもアクセスすることができます。ホームページを活用していただき、吹田分館をよりいっそうご利用ください。

URL: <http://www.library.osaka-u.ac.jp/suita/>

本館に投書箱設置

附属図書館本館では、利用者の皆様から広く図書館に対するご意見・ご希望をお伺いして、図書館運営の参考とさせていただくために、本年4月より、玄関を入れてすぐ右側の掲示板の横に、投書箱「利用者のこえ」を設置しました。利用者の皆様からの声を、図書館運営に反映できればと考えています。

生命科学分館、吹田分館につきましては、以

前より投書箱を設置しています。今回、本館への投書箱の設置に併せて投書の様式についても全館共通のものを定めました。この用紙は、各館とも投書箱の横に備え付けています。

投書に対する回答は、投書箱横の掲示板に掲示します。また、場合によっては、投書された方へ直接お答えします。図書館に対するご意見・ご希望をお寄せ下さい。

大型コレクション「ドイツ政治思想史」購入

附属図書館では平成8年度の大型コレクションとして、「ドイツ政治思想史－保守主義と自由主義－」を購入しました。

これは、18世紀以後のドイツ政治思想に関する470点のコレクションで、保守主義に関する著作を中心に、自由主義、革新主義にわたる基礎的文献が集められており、Von der Idee

des Staates und ihren Verhältnissen zu den populären Staatstheorien: eine Vorlesung/ von Adam H. Müller. - Dresden: Walther, 1809をはじめ、多くの貴重な初版本を含んでいます。

このコレクションについてはOPACで目録情報検索することができるほか、図書館ホームページでも今後情報を提供する予定です。

30巻4号の訂正

前号(30巻4号)は誤植が多く、まことに申しわけありませんでした。
下記のとおり訂正いたします。

- 1頁 正 Vol.30 No.4 March 1997
 タイトル欄 誤 Vol.30 No.4 Dec 1997
 (修正済のものもあります)
- 5頁 正 (http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/opac_j.htm)
 左11行目 誤 (<http://www.osaka-u.ac.jp/others/opac-j.htm>)
- 7頁 正 <http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/sokuhosi.htm>
 右15行目 誤 <http://www.lihrary.osaka-u.ac.jp/others/sokuhosi.htm>
- 7頁 正 <http://www.library.osaka-u.ac.jp/news/newdb.htm>
 右38行目 誤 <http://www.library.osaka-u.ac.Jp/news/newdb.htw>
- 8頁 正 平成9年3月31日発行
 奥付 誤 平成8年3月31日発行

■■■■ 会 議 ■■■■

豊中地区運営委員会

H9.3.3 (月) 14:00~14:30

1. 次期豊中地区運営委員会委員長の選出を行い、投票の結果、菊池城司委員(人間科学部)が選出された。
2. 自然科学系図書資料の推薦部局に、人間科学部と健康体育部を加えた。

図書館委員会

H9.3.3 (月) 15:00~16:50

1. 平成9年度事業費予算要求について審議し、原案どおり承認された。
2. 平成10年度新規概算要求について審議し、原案どおり承認された。

■■■■ 日 誌 ■■■■

- | | | |
|---------|----------------------|-----------------|
| H9.3.3 | 豊中地区運営委員会 | (本館) |
| | 図書館委員会 | (本館) |
| 3.4 | 電子図書館サービス説明会 | (銀杏会館・学術情報センター) |
| 3.6 | 総合目録小委員会 | (学術情報センター) |
| 3.7 | 総合目録委員会 | (学術情報センター) |
| 4.24 | 近畿地区国立大学図書館協議会 | (京都大学) |
| | 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会 | (京都大学) |
| 5.22~23 | 日本医学図書館協会総会 | (旭川グランドホテル) |
| 5.27 | 国立大学附属図書館事務部課長会議 | (東京医科歯科大学) |
| 5.28 | 国立大学図書館協議会常務理事会 | (東京大学) |
| 5.29 | 国立大学図書館協議会理事会 | (東京大学) |